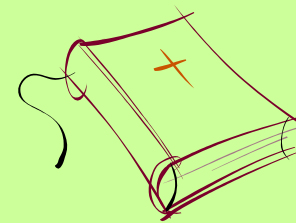


MB伝道ニュース



開拓伝道のビジョンを語る【10】



笹田文章師：海外宣教委員会
(平野キリスト教会)

イエス様は「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。止めてはいけません。」(マルコ 10:14)とおっしゃっています。子どもたちへの宣教は、イエス様のみこころであり、開拓伝道においても例外ではありません。10年前の平野キリスト教会では、子どもたちがだんだんCSに来なくなっていました。そのような時、このみことばに応答して進められている愛隣チャペルキリスト教会のMEBIGのミニストリーへと導かれました。子どもも大人も神様から見れば、同じ人間です。だから、子どもたちへの宣教も大人と同様に重要なのです。では子どもたちへの宣教がどうして重要なのか、その理由を3つ申し上げます。

《第一に、滅んでしまうからです。》

私たちの周りには、親が子どもに虐待する、また親が子育てを放棄する、こうして愛されないで育った子どもが非行に走ってしまうという悲しい現実があります。

たとえ、親が子どもを愛さなくなっても、イエス様は自分が代わりに十字架に架るほど、その子どもを愛してくださっているのです。それは、滅んでほしくはないからです。だから、イエス様は、「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。止めてはいけません。」とおっしゃっているのです。たとえ、子どもたちが親から愛されなかったとしても、幼いうちに、イエス様に愛されていることを体験するなら、信じて救われていきます。平野キリスト教会では、CS教師が彼らの霊の親となって愛し、イエス様の愛を伝えていく働きを心掛けています。すると、ノンクリスチャン家庭の子どもたちが毎週来るようになり、イエス様を信じて救われるようになりました。さらに、子どもたちが新しいおともたちを誘って来るようになりました。イエス様の愛を体験した子どもたちが、おともたちもイエス様を信じて救われることを願う気持ちになったからです。そのような実を結ぶことは、私たちの力ではできません。それは、神であるイエス様が働いてくださっているのです。

《第二に、祝福されなければならないからです。》

子どもたちは大人より弱く、自分の力では生きていけない存在です。それだけ、子どもたちは大人より、神様に祝福されているといえます。それは、マルコ 10:16 に、「イエスは子どもたちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福された。」とあるからです。手を置いての手は複数形が使われています。イエス様は、片手間で子どもたちを祝福されたのではなく、両手で、しっかりと子どもたちを祝福されたのです。ここからも、大人と同じように、いやそれ以上に子どもたちを祝福したいという、イエス様のみこころが見えてきます。ですから、平野キリスト教会では、子どもたちがイエス様のところに来させることを止めないように心掛けています。すると、多くの子どもたちの心が解放され、喜びに満たされるようになりました。それは、彼らの大人以上に祈る姿に現れています。平野キリスト教会では、毎週水曜日午後 4:15~5:15 まで、ミラクルメビック

が、今年はホームステイ先の方のついでで名古屋にある「カナダ人協会」主催の地引網体験ツアーに参加させていただきました。サーフィンやバーベキューやらもありとても楽しい1日だったようです。その他、今年は、初めて豊田で行われる「おいでんまつり」の花火大会に、藤が丘教会の英会話教師のマーク・ケイン先生御家族と一緒に連れ出す事が出来ました。アクションチームを1週間お招きして色々なプログラムをするためには、とてもたくさんの人の祈りと協力が必要です。「サマーキッズ」



では、3日間、参加者と奉仕者を合わせて約45人分もの食事を作り、3日目の発表会の時には参加者の家の分も含めて80人分ぐらいのおやつと飲み物を用意します。「こんな狭い台所であんなにたくさんの人のおいしい食事が作れるなんて！」と言いながらチームのメンバーは2~3人で一杯になってしまう狭い台所の写真を撮っていきました。その他にも、3つに分かれる各グループのヘルパーや聖書のお話しのメッセンジャー(マーク先生)、受付や色々準備を下さる人など教会員以外にも実にたくさんの人が奉仕してくださっています。種まきの働きの一つとして少しでも神様の愛と御言葉が子供達の心に植えられ育っていきますよう、毎年奉仕者一同心を合わせて祈り、働きを共にしています。

これからもアクションチームと共にする各教会の働きに主の祝福が豊かにありますように。

中国地区開催 個人伝道トレーニング報告

報告：飯塚国太郎兄(広島北キリスト教会)

11月3日、4日、広島北キリスト教会で個人伝道トレーニングが行われました。CCCから6名をお迎えして、周南3名、広島北20名が参加しました。KGPの具体的な使用方法を学んだ後、2日目にはアウトリーチがありました。現在、広島北キリスト教会では、教会員との関係性を通しての伝道を主体としているので、アウトリーチに出ることをためらう人が殆どでした。しかし、実際に行ってみると案じていたよりもずっと好意的に聞いてくださいました。中には共に祈ることもあり、教会案内をお渡しすることもできました。この貴重な経験を、家族や知人への伝道に生かせるよう励むきっかけを見つけた思いです。終わった後、東の空にかかった虹を見て、神様がこのことを喜んで下さったと実感した二日間でした。



編集後記：皆様のご意見ご感想をお待ちしております。

発行：日本メノナイトプレザレン教団 伝道委員会

〒563-0032 大阪府池田市石橋3丁目7-15 TEL:072-762-5731

発行者：田畑雅紀(伝道委員長) 編集者：河野和雄(広報担当)

というお友だち祈り会を、毎週日曜日午後 5:30~6:00 まで、くるくるミラクルという中高生祈り会をしています。ある週のミラクルメビックは小学生10名、中学生5名、高校生2名、大人4名、計21名でした。またくるくるミラクルは中学生5名、高校生3名、大人7名の15名でした。ちなみに、木曜日の婦人祈り会は9名、水曜日夜の祈り会は4名でした。また、ある面で大人以上に奉仕するようになってきました。祈りも、奉仕も決して上手いとは言えませんが、教会の空気を温かくしています。これこそ、祝福だと感じています。

《第三に、子どもたちの姿から大人が祝福を受けるからです。》

イエス様はまた、「神の国は、このような者たちのものです。まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、入ることはできません。」(マルコ 10:14、15)とおっしゃいました。イエス様が伝えたかったことは、大人も、子どものように神の国を受け入れる者でなければ、神の国の祝福を十分受けられないということではないでしょうか。大人もまた、子どもの信仰から影響を受けることで、さらに祝福されるようになるのです。実は、私たちが考えている以上に、子どもたちの信仰から教えられることが多いのです。そのような子どもたちの祈る姿、奉仕する姿から見習うことこそ、「謙遜になること」ではないでしょうか。そうすれば、私たちはもっと祝福されるのです。ところで、マルコ 10:13 を見ると、子どもたちを止めようとした大人が登場しています。それは、祭司長、律法学者、パリサイ人ではなく、イエス様の弟子たちだったのです。イエス様の弟子であるはずの私たちも、うっかりしていると、イエス様の本当のみこころが分からないで、大切な宣教の働きを止める側になりかねないのです。

では、子どもたちへの宣教の働きを止めないために、どうすればよいのでしょうか。そのためには、弟子たちの問題は何だったのかを考えてみる必要があります。その問題こそ、私たちも気を付けなければならない問題でもあるからです。それは、イエス様がエルサレムに向かわるという目的のため、子どもたちに関わって、時間をロスしたくない、イエス様に疲れるような働きをさせてはならない、という忖度(配慮)をしたことです。確かに、奉仕も大切です。祈りも大切です。但し、それを理由に、子どもたちに関わることをおろそかにすることは、イエス様は喜ばれないのです。むしろ、子どもたちに時間を犠牲にすることを喜ばれるのです。イエス様は「最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。」(マタイ 25:40)とおっしゃいました。子どもたちのために時間を犠牲にすることは、イエス様に時間を犠牲にすることと同じなのです。体重5キロの幼子のたましいは、体重60キロの大人のたましいの1/12 でしょうか。そうではありません。イエス様から見れば、大人も子どもも、同じ尊いたましいなのです。イエス様は子どもの救いのためにも十字架にかかられたわけではありませんか。

最後になりますが、子どもたちがイエス様に近づくことを止めるのではなく、むしろ、子どもたちをイエス様に近づけさせるために時間を捧げ、子どもたちへの宣教に励みましょう。信じる子どもたちの姿を通して、イエス様から祝福をいただき、MB教団の開拓伝道のビジョンが広がることを願います。

「家の教会」シリーズ#4



菰田義光師
泉北キリスト教会

私と「家の教会」との出会いには石賀満先生を通してです。もう2年前の事でしょうか、川崎市の招待キリスト教会の「家の教会セミナー」に絶対に行くべきだと、石賀先生から1時間以上に亘って説かれたのです。先生は「これまで十数年の牧会の中で抱いていた、多くの疑問の全てに答えを頂いた。」と言われました。敬愛する石賀先生の言葉を信じ、その年の1週間のセミナーに参加し、多くの恵みを頂きました。

私がセミナーで教えられた事の一つは、牧師の大切な務めは救霊と、信徒をキリストの弟子として成長に導くためのコーチ役だということです。そして、実はこの救霊と弟子訓練は決して別々ではなく、一体のものとして「家の教会」を通して実現できる、との考えでした。

私は牧師6年目ですが、信徒の兄姉が次々と洗礼志願者を連れて来て下さり、牧師として洗礼に携わ

る喜びを味あわせて頂きました。そしてその喜びと感謝はキリストの弟子として、地上では他に味わう事ができない喜びであると感じました。そして、その喜びを牧師だけが独り占めするのではなく、一人でも多くの信徒の兄姉に味わって頂くために祈り仕えて行くのが、牧師の最大の務めだと思われました。

家の教会では未信者、まだ救われていない方を「VIP=最も大切な人」と呼びますが、これも素晴らしいアイデアだと感心しました。そして、同時に教会に初めて来られたVIPを本当に最も大切な人として仕えているか、会議や打ち合わせ集会などを優先していないか、を問われ反省させられました。信徒も牧師もVIPに心から仕える事を通して、真の喜びを体験し、成長させられるのではないかと思います。

泉北教会は尼崎キリスト教会やいずみホープチャペルの様に、招待モデルの「家の教会」を今すぐに実施するのは困難ですが、20名程の教会なので教会全体を一つの「家の教会」と考えています。「家の教会の理念」を共有するため、尼崎の栗田学先生や吉田伸兄に証しをして頂いたり、私も「家の教会」の礼拝メッセージをし、「いのちの道」の学びや、毎週の「希望のみことば」などを通して、繰り返し信徒の皆さんにお伝えしています。

昨年4月から木曜日の午前に「毛筆を楽しむ会(講師:谷口恭子姉)」と「ゴスペルミニストリー(山本真一郎先生)」を隔週で行い、昼食は板倉由貴夫兄の具だくさんのうどんと交わり、午後には30分の木曜礼拝と祈り会と交わりを行っています。毎回、平日にも拘わらず、10~15名の方が参加し、地域の方も5~6名参加され、それぞれが「毛筆の家の教会」「ゴスペルの家の教会」と考えています。そして嬉しい事には、この10月より暫く休んでおられた家庭集会「ベデスタの家」が谷口兄姉宅で再開され、家の教会が4つになったと喜んでいきます。

2017年度 アクションチームの働き！！

報告:服部妙子姉(藤が丘キリスト教会)

サマーキッズ2017

藤が丘教会でアクションチームをお迎えしての活動は、今年で13年目になります。日曜日が移動日であることが多いので、日曜日夕方からのソフトボール大会から始まり、火曜日からは、「サマーキッズ」と名付けた小学生対象のプログラムを3日間、金曜日には大人の英会話の方々、幼稚科の生徒の家族とママ広場(伝道向けのお母さん達の勉強会)の皆さんをお招きして持寄りランチオンをしています。「サマーキッズプログラム」は30名ほどの子供達を募集し、3日間午前10時から午後3時(最終日は3時半)まで昼食とおやつ付きで行います。毎年、主題を決めて、それに沿った賛美(日本語)や聖書のお話し(日本語)、暗唱聖句、クラフト、ビデオ上映などを選びます。今年の主題は「聖書は神様の御言葉、神様からのお手紙」として色々子供達にしっかりテーマが伝わるように工夫しました。アクションチームには、それぞれの証しと、合計4回ある分級の活動の受け持ち、英語のアクションソングの指導、ゲームのリードなどをさせていただきました。



アクションチームへのおもてなしとしては、出来るだけ日本の家庭生活が経験できるようホームステイ先を探しますが、今年は男の子4人ということでちょっと難しく、4日間は教会堂でいただきました。毎年恒例になっていることとしては、教会員である茶の師匠の好意で、アクションチーム全員が着物の着付けをしていただき、お茶のお手前を経験させていただけることです。着付けや髪を結う専門家まで来て下さるので本格的です。もっとも、今年は全員男の子でしたからあまり華やかさはなかったと思いますが…。毎年1日は名古屋観光などにお連れしたりするので

